

自然観察 「中秋の名月」

(2021. 9)

「中秋の名月」は、旧暦8月15日の「月」のことをいいます。15日ですから、十五夜ともいわれます。今年の「中秋の名月」は、9月21日でした。

この日、全国各地で月見の行事が行われ、ここ、寺田縄地域でも家庭の縁側に飾りを設けて「月」を迎えました。合わせて、子供たちにとって楽しい年中行事の日でもありました。

『月々に つき見る月は 多けれど 月見る月は この月の月』“よみ人しらず”の句があります。「この月の月」とありますので、十五夜に見る「月」を現わしています。句の中には、「月」が七ヶ所も、十五夜の「月」を愛でる心が表現されています。



十五夜の前日、「待宵（まつよい）」といいます。明日の名月を待つという思いを表しています。

十五夜の「月」は満月、望月（もちづき）です。秋の空気が澄みわたり、「月」を最も美しく見ることができます。

写真は、寺田縄地域の東、十五夜前夜、昇り始めた「待宵の月」の姿です。水田の稲穂は金田の名の通りすっかり金色、実っています。



菜園からの「月」です。早々と咲いた彼岸花ですが、そろそろ終わります



菜園に咲くひまわりと「月」です。月光がさえています。明日は十五夜。

<以上は、スマホでの撮影です>



「中秋の名月」

天体観測様の写真になってしまいました。我が家のベランダからです

<十五夜の行事>

家庭の縁側にお膳や卓袱台（ちゃぶ台）を出して、ススキ、カヤ、キキョウ、オミナエシ、菊など秋の草花を徳利や一升瓶にたてて飾ります。お盆には十五個の団子をのせ、サトイモ、サツマイモなどの畑作物、ナシ、カキ、クリなどの果物を盛り「月」に供え、収穫に感謝します。

かつて、供物は誰が盗っても良いとされていたそうで、子供たちは、夜になると連れだって、家々を竹竿の先に釘を付けた用具で縁側の供物を刺しとって回りました。

家人は様子を見て見ぬふりをし、咎めることはしませんでした。むしろ、たくさんのお供えを盗られることが、たくさん幸せをもたらすと考えられていました。

子供たちにとって、それは楽しい年中行事となっていました。

戦後、盗む行為に対してか、教育的観点から禁止され今では行われていません。道祖神の祭りも同様の理由で子供中心の行事から外されました。

旧暦の9月13日夜も「片月見はいけない」と、十五夜を祀ったのと同じ場所で祝い、団子は十三個飾られました。 <市博物館「農家の四季」、市民俗調査報告書4 改変>

（参考）

中秋の名月は「芋名月」とも呼ばれています。秋、里芋の収穫祭が行われていたそうで、「芋煮会」などもそこにルーツがあるのでしょうか。